

特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン

東日本大震災復興支援 年次報告書 2012



ハウスサポーターとして、引き続きご協力をお願いします。

ハウスサポーターとは、ハビタット・ジャパンを通じて、日本や世界で貧困、災害、紛争など様々な理由により劣悪な環境で暮らす人々が、人間らしい生活のできる住まいを手に入れられるよう、支援して下さる人のことです。ハビタット・ジャパンのハウスサポーターとして、継続的なご支援をよろしく願っています。

詳細 ▶ www.habitatjp.org



特定非営利活動法人 ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパン
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-13-11 CHARI 千駄ヶ谷 4F
Tel: 03-6459-2070 Fax: 03-6459-2071
E-mail: info@habitatjp.org URL: <http://www.habitatjp.org>

震災から2年

東日本大震災から2013年3月11日で2年。
災害発生直後から支援活動を始めたハビタット・ジャパンは、1年が経過した2012年も東北での復興支援事業を積極的に推進してきました。

ニーズの多様化、家の修繕に要望高まる

被災地のニーズは変化しています。がれき撤去や生活物資の提供といった緊急支援が必要とされた2011年に比べ、2012年は、住まいや公共スペースを整える支援への要望が、より多くの被災家族や自治体などから寄せられるようになりました。暮らしている仮設住宅の住環境を改善すること、あるいは、被災した自宅を修繕することなどです。この1年は、ハビタットが世界で推し進めてきた、誰もが安心して安全に暮らせる住まいの実現を通じてコミュニティを築くという支援を、東北の被災地でも本格的に実施した年でした。

東北復興支援プログラム 2012年の主な活動

- 家屋修繕とコンサルティングによる個人世帯への支援
- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援
- 仮設住宅での住環境を改善する支援
- 幅広いニーズに応えたボランティアによるきめ細かな支援



2012年 活動のご報告



宮城県石巻市

- 仮設住宅での住環境を改善
- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援

岩手県陸前高田市

- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援

宮城県東松島市

- 仮設住宅での住環境を改善
- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援
- 修繕前の個人宅の内部解体や清掃の支援

岩手県大船渡市

- 家屋修繕とコンサルティングによる個人世帯への支援を実施
- 仮設住宅での住環境を改善
- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援

宮城県女川町

- 仮設住宅での住環境を改善
- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援
- 修繕前の個人宅の内部解体や清掃の支援

宮城県名取市

- 公共施設の修繕や建築によるコミュニティ再建支援

東日本大震災以来、ハビタット・ジャパンの活動に揺るがぬご支援、ご協力をいただき、誠にありがとうございます。ある時は寄付を通じ、またある時はボランティアとして、支援して下さったことで、被災された多くの家族を支援することができました。

支援金額 69,911,513円
ボランティア数 1,103名



ボランティアとともに

ボランティア一人ひとりの熱い想いがあつたからこそ、どんなに厳しい活動環境でも、被災者の気持ちに寄りそった支援を行うことができました。

ご寄付のおかげで

一緒に活動して下さることも支援に必要な要素ですが、物資・経済面などで幅広く支えて下さった皆さんのお力添えがあったからこそ、活動を継続することができました。

2011

ハビタットは震災直後から支援活動を開始。がれきの撤去など、復旧、復興の基礎づくりをお手伝いしました。



がれき撤去
住宅のがれき撤去や泥かき、道路や生活排水用の側溝、公園の清掃など、ひたすら片づけることから支援を始めました。



仮設住宅への支援
仮設住宅に入居する家族に、700以上の布団セットを配布。仮設生活の長期化を見据えた被災者の暮らし改善に取り組みました。



みなし仮設への支援
みなし仮設への越冬支援として、暖房器具の配布、復興への願いを分かち合う機会の提供など、生活再建・自立に向けて支援しました。

2012

震災から約1年がたち、被災地でのニーズは多様化。ハビタットは家の修繕からコミュニティ再建の支援まで、多岐にわたる支援活動を行いました。



コンサルティング支援
仮設住宅や公民館を巡回し、在宅再建に関わる公的な支援制度の概要説明や個別相談をするコンサル支援を実施しました。



仮設住宅での住環境の改善
仮設住宅やみなし仮設では不便なことが多いため、住環境を改善すべく、物置の設置やひさし、緑帯の製作など、幅広く支援しました。



コミュニティ支援
生活を再開するには地域での力が不可欠です。そこで、公民館の修繕、バス停や漁師小屋の建築など、公共の場の再建に努めました。

岩手県大船渡市

修繕家屋数 **115軒** コンサルティング世帯数 **1,155世帯**

活動例

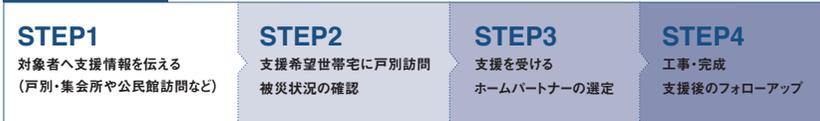
支援内容



被災地での生活再建に必要なのは、まず住まいです

ハビタット・ジャパンでは、修繕によって再利用できる住宅に対し、工事費の一部を50万円を上限に補助することで、風雨や寒さをしのぐための応急修理を促しました。同時に、住宅再建に関する相談を受け、助言や提案を行うコンサルティングも実施。情報へのアクセスが限られている高齢者や、被災した住宅のローンを抱える人々などに対し、利用できる各種制度を個別の事情に合わせてわかりやすく説明することで、仮設住宅などを出て自宅に戻る人々の自立を支援しました。

支援の流れ



事例1

浴室の給排水システムが震災の影響で破損した富山武次郎さんの自宅。家に入浴することもままならず、また、畳のない部屋、使用できないコンセントなど震災の爪痕を残したままでしたが、これらを修繕し、生活再建の一步を進めることができました。



事例2

船砥孝子さんの自宅は1階部分が自営する会社の事務所でしたが津波により全壊。2階に続く階段が流されてしまったため、上り下りは梯子を使うしかなく大変不便でしたが、今回の支援により階段を設置。生活環境を大きく改善できました。

ホームパートナーの声

菊池源吉さん(岩手県大船渡市)

菊池さんの家は、津波の被害こそ受けませんでした。地震によって傾いていました。それでも、何とか建っていたため、支援は申し込まないつもりだったという菊池さん。しかし、ハビタットの戸別訪問で、家が土台から傾いているため、その状態で住み続けるのは非常に危険であるわかりました。「自分が危険な状態で暮らしていると思いませんでした。わざわざ足を運んで教えていただいて、ありがたかったです」と語った菊池さんは、倒壊を予防したこの家で、復興に向けた生活をスタートさせています。



被害状況を確認する菊池さんとハビタットスタッフ

STEP1



戸別訪問するだけでなく、集会所や公民館に集った住民を対象に、政府が行っている支援制度やハビタットが行う支援事業についての情報を提供しました。

STEP2



建築士などの専門家と協力し、希望者の家を軒ずつ訪問して、支援対象となるホームパートナーを選定するために必要な被災家屋の状況を調査しました。

STEP3



公正な選定を行うため、綿密に調査した結果をもとに複数の専門家と担当スタッフで分析を行いました。限られた支援金のおかげで、一世帯でも多くの家を修繕できるよう、何度も協議を重ねました。

STEP4



工事完了後も、修繕支援を受けたホームパートナーの世帯を訪問し、その後の様子を伺うなど、寄り添った支援を行っています。

岩手県陸前高田市 宮城県東松島市ほか

公民館修繕 2棟 漁師小屋建築 5棟
バス停建築 5棟 その他のコミュニティ支援 12件

活動例



宮城県名取市閑上地区の小塚原南集会所を修繕。大工による指導の下、2012年9月に修繕開始。住民とボランティアが一体となり、年末までにはほぼ完成しました。今では、地域住民の憩いの場として、お茶会などに使われています。



左 / 地元の子どもたちが夢や希望を託して描いた岩手県大船渡市のバス停。子どもたちを雷雨や雪などから守ります。
右 / 宮城県女川町の離島、出島に暮らす漁師たちの切実な声を受けて建築された漁師小屋。漁業再開へのお手伝いをしました。

左 / 宮城県石巻市杜鹿半島の卯の崎仮設住宅に暮らす住民のために、東屋を建築。入居者のふれあいの場を支援しました。
右 / 岩手県陸前高田市にある仮設図書館のウッドデッキに、日差しと風を遮るための、ひさしと閲覧用テーブルを制作しました。



支援内容



生活を円滑に再建するためには コミュニティの力が必要です

災害後に生活を再建するには、個々人の家を直すだけではなく、地域の暮らしがなくてはなりません。そこでハビタットは、住民同士の連帯意識や地域への愛着を重んじたコミュニティ支援を実現すべく、避難先から戻った人同士がふれあい、集まり、共に利用することのできる建物の再建を行いました。
被災地には様々なニーズがありました。漁師の方々は仕事を続けるために、道具を保管する小屋を求めていましたし、地域からは被災したままになっていた公民館を再建したいという希望、また子供をもつ親や学校からは、通学する子供たちを守るために屋根つきのバス停を作りたいとの要望がありました。
震災2年目は、ハビタットの専門性を生かして、ボランティアの皆さんと、こうした要望に積極的に応えていきました。

支援の流れ

<p>STEP1 それぞれのコミュニティのニーズ調査</p>	<p>STEP2 行政や自治会との話し合い (自治会、社会福祉協議会訪問など)</p>	<p>STEP3 工事・完成 (住民とボランティアが参加) 支援後のフォローアップ</p>
---	--	--



公民館修繕までの流れ

東松島復興協議会との協力のもと、亀岡公民館の修繕を実施しました。



建物内部の解体作業からとりかかり、浸水により傷んだ床・壁・天井のボードを手作業で撤去。再利用できる木枠などは塩素漂白剤を使って消毒を行い、カビを防止しました。



建物内部が乾いたら、窓の交換を実施。その後、壁・床・天井の張り直しや塗装、外壁の洗浄などを行いました。同時に、業者による電気工事・水道工事も進められました。



修繕作業完了後、建物外部にウッドデッキを設置。大工さんとボランティアが協力し、手作りのテーブルとベンチが完成。晴れて、再生した公民館の引き渡しができました。

ホームパートナーの声

小平敏さん(宮城県名取市)

名取市小塚原地区は、がれきが撤去されてもお住住宅は再建されないままで、復旧・復興は道半ばの状況が続いています。そんな中、何とかが残っていた集会所は、希望の象徴であり、地域再建への起点でした。「皆が家族のように暮らしてきたこの地区を復興させるには、皆が戻る場所が必要でした」と小平さんは振り返ります。ハビタットの支援を経て現在、この集会所では住民同士で話し合いをしたり、体操教室などを開いたりしています。小平さんは「人が集まることができるから、皆で元気になって、一緒に頑張っていけると嬉しいです」と話しています。



小塚原南集会所の前に立つ小平さん

岩手県大船渡市 宮城県石巻市ほか

支援活動を行った仮設住宅の数

21ヶ所

活動例



岩手県大船渡市大立仮設住宅では、春になり使わなくなったストーブなどを収納する場所がなく困っていたため、物置を製作し、設置しました。



岩手県大船渡市の大豆沢仮設では、ベランダ側の窓にひさしがなく、雨の時は洗濯物や屋外で保管する備品がびしょ濡れになっていたため、ひさしを製作、設置しました。



宮城県東松島市の小野ふれ愛北公園仮設住宅では、住民が共用で使用する備品が所狭しと置かれた談話室があったため、そのスペースを有効活用できるよう、敷地内に共用の物置を建築しました。



宮城県石巻市の関入仮設では、住民が集う場所にベンチとテーブルを設置。住民の方たちと協力して製作しました。

仮設住宅入居者の心に寄り添う 支援が求められています

個人宅や公共施設に加え、町の機能の再建も少しずつ進む一方で、依然として、多くの人々が恒久的な場所での暮らしに戻れずにいます。自宅を再建したり修繕したりしたくても、経済的な理由から今も仮設住宅で生活を余儀なくされている人々も多く、そうした中で、かつての暮らしとは程遠い、仮暮らしの窮屈さや不便さ、将来への不安感が浮き彫りに。そこでハビタットでは、仮設住宅(みなし仮設住宅*を含む)で住環境の改善支援を行いました。

*みなし仮設住宅とは、震災などで住居を失った被災者が、民間事業者の賃貸住宅を仮の住まいとして入居した場合に、その賃貸住宅を国や自治体が提供する「仮設住宅」に準じるものとみなしている住宅のことをいいます。

支援内容



支援の流れ

- | | | |
|-------------------------------------|---|---|
| STEP1
ニーズ調査
(戸別、支援員訪問) | STEP2
住民と具体的な
支援策を話し合う
(倉庫は共有か戸別か、など) | STEP3
工事・完成
(住民とボランティアが参加) |
|-------------------------------------|---|---|



STEP1



仮設住宅を戸別に訪問し、改善すべき点や不安に感じていることをヒアリング。住民の方のニーズ調査を実施しました。

STEP2



ニーズ調査で分かった仮設住宅の住環境の改善方法について、住民とより具体的に決めていきました。支援する物の数、実施スケジュールなどについても話し合います。

STEP3



工事は仮設の住民とボランティアが共に働き、一緒に完成を目指します。

ホームパートナーの声

及川宗夫さん(岩手県大船渡市)

ハビタットのニーズ調査で「収納場所がない」「窓枠が地面から高くして洗濯物を干すのも危険」などの声があがった小中井仮設。そこでハビタットは、住民の共用倉庫と各世帯に屋外用の縁台と花台を製作。共用倉庫は有志アーティストによりデザインされ、今では「西の蔵」と呼ばれる地域のランドマークに。この仮設住宅に暮らす一人、及川宗夫さんは、「本当に必要なものを作っていただき、仮設での生活が少しは安心できるようになった今だから、『家に戻る』という次のステップが考えられます。次の目標は、小中井仮設の住民が安心して暮らせる家に戻り、またそこでコミュニティを築いていくことです」と話してくれました。



2012年秋に完成した「西の倉」、右から2人目が及川さん

2012年 ボランティア総数 **1,103人** | 一般 423人 学生 374人 企業 306人

体験者と地元住民の意識を変えるハビタットのボランティア

支援のニーズが多様化した2012年は、ボランティアの活動内容も変化しました。個人宅や公共施設、仮設住宅での様々な活動を通じて地元住民とふれあい、時には一緒に汗を流すことも。活動を通じて、ボランティア自身も自分が行動することの価値を知り、被災地から離れた日々の暮らしに新たな知見を持ち帰ることができます。こうしたプロセスを各地域で繰り返し展開することにより、支援地域全体を活性化させているのです。



2012年は、一般、学生に加えて、支援企業の有志ボランティアが被災地での活動に参加。「震災以来ボランティアに参加したいと思っていましたが、個人では参加まで至りませんでした。そんな時、社内でボランティア募集があり、参加しました」「自分が会社を通じて寄付をした支援金が、どうやって使われているか知りたくて参加しました。実際にボランティアとして来て、自分の支援が少しでもお役にたっているのがわかって、嬉しく思いました」「普段は決して会うことのない部署の人とも、仲間になりました。ボランティア活動で出会った仲間と共に、また被災地を訪ねたいです」などの声が寄せられました。

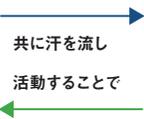


めざましい活躍をみせた キャンパスチャプターの学生たち

一般の方々や企業の有志の方々のほか、ハビタット・ジャパン学生支部、キャンパスチャプターに所属する学生たちも支援に著しく貢献。ボランティアとして活動に参加するだけでなく、日本各地で募金活動を行いました。震災以来、チャプター内には東北支援係が設けられ、学生としてできることを精一杯取り組んでいます。

意識の変化

行動することの価値を知る
新たな知見を持ち帰れる



心の支えになり、
再建への気力が湧く

地元住民の声

新沼 郵さん (岩手県大船渡市)

生まれも育ちも大船渡市で、現在も市内に暮らしている新沼さん。震災以降、大船渡市で支援活動続けるハビタット・ジャパンを応援して下さっていたそうです。「震災からすでに2年以上も経過しています。生まれ育った街の面影が全くなくなってしまった場所もあり、いまだにあの災害が起きたことが信じられません。それでも、震災後はボランティアの方など普通の生活では一生出会うことのない人たちの繋がりが出て、本当に素晴らしいと思っています。この繋がりを将来の復興のために、将来の大船渡のために大切にしていきたいです。本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを表しています。



震災直後は地元の消防団にて、瓦礫撤去作業や不明者の捜索も行ったという新沼さん ▶

生活拠点の復興のために

「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現は、ハビタット・フォー・ヒューマニティが、1976年の設立以来、掲げてきた理念・使命です。この「きちんとした」はdecent (ディーセント) の和訳で、大江健三郎のノーベル文学賞の受賞講演で有名になりました。品位のあるという語意の他、慎ましいが見苦しくない、という意味があります。私たちはあの3月11日に、ディーセントな生活拠点の存在の重要性を、どこかの貧しい国や貧しい人々のことではなく、遍く自分たち自身の問題として痛感いたしました。爾来ハビタット・ジャパンも、皆さまのご支援を頂きながら、国内でもディーセントな場所の実現にむけ活動することができましたことを、深く感謝申し上げます。今後も、世界の友人と共に日本のコミュニティのために、また日本の同胞と共に世界の住宅環境改善のために、引き続き皆さまのご支援を仰ぎながら、人道的活動を続けたいと考えております。



理事長 鍛冶 智也

ご支援をいただいた企業・団体の皆様



このほかにも、多くの企業・団体・個人の皆さまからご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。